

第27回大分県民芸術文化祭参加行事

The 27th Oita Prefecture Citizen's
Arts & Culture Festival Participating event

Piano Solo Recital by Mizobe Yuki
In J:COM Horuto Hall Oita

溝部雄貴

ピアノ・リサイタル

Program

F.ショパン バラード 第1番 ト短調 作品23
Frédéric Chopin Ballade no.1 g-moll Op.23

F.ショパン ノクターン 変ホ長調 作品9-2
Frédéric Chopin Nocturne Es-Dur Op.9-2

F.リスト パガニーニ大練習曲集 第3曲
《ラ・カンパネラ》嬰ト短調 S.141 R.3b
Franz Liszt Grandes études de Paganini
"La campanella" gis-moll S.141 R.3b

M.ラヴェル 《水の戯れ》
Maurice Ravel Jeux d'eau

B.バルトーク 《変奏曲》BB22
Béla Bartók Válogatott BB22

B.バルトーク 《舞踏組曲》BB86
Béla Bartók Táncszvit BB86

2025.11.19 (水) 18:30開演 18:00開場
J:COMホルトホール大分 小ホール

一般 2,000円 学生・シニア(65歳以上) 1,000円
プレイガイド(チケットお取り扱い)
▶トキハ会館3Fプレイガイド または、J:COMホルトホール大分
チケットのお求め・お問合せ: mizobebb2268@gmail.com

主催: 溝部雄貴ピアノ・リサイタル実行委員会

後援: 大分合同新聞社 大分県民芸術文化祭実行委員会 NPO法人大分県芸術振



J:COM ホルトホール大分
大分市金池南1-5-1
JR大分駅より徒歩約2分

溝部君のこと

彼との付き合いの始まりは、もうずいぶん前に遡ります。溝部君が大分県立芸術緑丘高校に在学中、緑丘高校の公開レッスンで聴かせてもらったのが、まずその最初でした。しかし大変失礼ながら、その時の印象はあまり明確ではありません。

その後、無事大学に入学して僕のクラスに入ってから、彼の破格の「人間の良さ」に対する印象が、むしろピアノの腕前よりも記憶に深く刻まれています。彼の周りには、争いが絶対に起こらない・・・人におもねったり、甘言を尽くすわけでは決してないのに、彼を取り巻く人は彼を認め、愛している。ひたすら穏やかで公平で、そして清澄な空気が、彼という存在を包んでいる。それは今でも変わらない。

彼が大学院受験のことを口にするようになって（僕にはなかなか言えなかったようですが）、その頃から、彼のピアノが変わってきました。いや、変わってきたというより、ようやく僕が、彼の真価に気づき始めたのでしょうか。バルトークという、彼のライフワークともなる、作曲家との出遭いもありました。そして、ピアノのみならず、フランス語もなんと1年でクリア。ハーモニーや音楽史も極めて立派な成績で、見事入学を果たしました。続く博士課程は、修士課程の比ではない程の難関なのですが、こちらも本当に嬉しいことに見事クリア。今は、日々研究や演奏に邁進しています。

どちらかと言えば晩成型かも知れませんが、強い意思と覚悟で音楽人生を切り拓いてきているように思います。彼が大分でのリサイタルを決めた時、もちろん両手をあげて賛成しました。大分の皆さんに、彼のピアノをぜひ聴いていただきたい。それは僕の偽らざる想いです。人間としても、音楽人としても。僕の誇りに思う、そして本当に信頼する人物である溝部君のリサイタル、皆様のお出ましを、心からお願い申し上げる次第です。

花岡 千春

溝部雄貴（みぞべゆうき）

大分県大分市出身。大分県立芸術緑丘高等学校音楽科を経て、国立音楽大学鍵盤楽器専修ピアノコースを卒業。同大学院修士課程を修了。現在、同大学院博士後期課程二年次に在籍。在学中に若林顕氏、パスカル・ドゥヴァイヨン氏の特別公開レッスンを受講。これまでにピアノを田島和美、伊勢戸康弘、脇谷直樹、花岡千春、江澤聖子の各氏に、音楽学を中田朱美、横井雅子の各氏に師事している。ペーラ・バルトークのピアノ作品を中心に、彼の行った民俗音楽研究についての調査と研究を続けている。民俗音楽等を題材にした作品研究を主軸に、併せてオーケストラ作品のピアノ編曲版についての研究も進め、それに則った演奏活動もおこなっている。

東京オペラシティのピアノマラソンコンサートへの出演、たちかわ市民交流大学の講座での演奏、東京銀座王子ホールでのジョイントリサイタルへの出演など、近年その活躍の場を広げている。